

歯っぴらいらいいふ2024年10月号

あたらし歯科医院

歯科衛生士 羽木 誠子

10月に入り、少し秋を感じる事が出来るようになってまいりました。
時折暑い日もあり日本の四季を肌で感じるのも少なくなってきました。
秋は読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋、食欲の秋と申しますが夜が長いこの季節少し日常から離れた非日常を感じるのも素敵ですね。
月夜の空を見ながらゆっくりと自分の時間を楽しみたいと思います。
月見という言葉があり、この時期月見バーガー、月見牛丼など月見と付けるだけで日本人は食欲をそそられます。
同じ卵でも、目玉焼きよりも月見とネーミングしただけで、美味しさも倍増です。
食べすぎに気をつけなくてはなりません。
今月は先月号に引き続き全身疾患と歯周病について書かせていただきます。

食道がんのがん組織にも存在する歯周病菌



歯周病の原因菌となるグラム陰性菌は細菌内に毒素を持っているのが特徴です
若年性歯周炎や急速に進行する歯周炎の原因となるアクチノバシラスなどは毒素を作り、細胞内毒素は細胞内自然死をもたらすことが研究により明らかになりました。

そしてこの細菌が細菌の毒素を作る事を研究から確認することで、毒素は歯周組織に対してだけではなく全身の組織や臓器の細胞や免疫担当の細胞も誘導することを確認しました。

歯周病の細菌は食道がんとの関係も疑われていて、国立がんセンターの研究により、歯周病の細菌の一つスプレプトコッカスアンギノサスがほとんどの食道がんの患者の組織から見つかることが分かっています。

国立がんセンターで手術を受けた食道がん患者の15名のうち14人で感染が認められるという驚きの結果が出ました。

肥満の人に多い、歯周病菌の感染例

歯周病菌は様々な病気と関係があります。

早産した女性の口腔内を調べたところ歯周病にかかっている比率の高いことが分かっています。

動物実験からも歯周病菌によって早産や流産の起こる可能性もわかってきました。

近年では肥満と歯周病菌の関連も示唆されます。

肥満は肥満を抑制するレプチンというホルモンの一種が関わっていることがわかりました。ただ明らかになっていない部分も多く肥満になると歯周病になりやすいのか、あるいは歯周病になると肥満になるのかなどメカニズムはわかっていません。

しかしながら気をつけなくてはならないのが、肥満は自分で管理しコントロールできるので食べる量と消費する量のバランスを考え運動をし、体型を整えることが大切です。





歯周病と関係深い事故免疫疾患について・・・

免疫不全とはどういうことか・・・細菌などの外敵に対して正常な防御機構が働かず抵抗力が落ちてしまった状態です。

免疫不全は自己免疫疾患によってもおこります。

身体は自分の体組織に対して抗体を作る事はないのですが、何らかの要因で自分の体の赤血球に対する抗体が出来てしまう事があり自分の体内に不要な抗体を作る事により起こる病気の事を自己免疫疾患と言います。

自己免疫は臓器非特異的疾患と、臓器特異的疾患に分けられます。

非特異的疾患には、シェーグレン症候群、突発性血小板減少症、自己免疫性溶結性貧血、悪性貧血、重症筋無力症、潰瘍性大腸炎、インスリン抵抗性糖尿病などがあり特異性疾患では慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、強皮症などがあります。

これらの病気が関わっている人がほかの人に比べ歯周病が進行しやすいことがすでに分かっています。

したがって全身の抵抗力を落とさないように普段の生活から、気を配り歯周病を進行させないようにすることが大切です。

これらの事から歯周病は口の中だけでなく国民病と言われる患者数も多い歯周病は全身の様々な悪影響を与えることを理解しなるべく予防し改善するようにすることに努めましょう。

以上今月の歯っぴらいらひはいかがでしたか？少し硬い内容でしたが、理解いただけると幸いです。歯周病の治療は患者様自身の努力と専門家による定期的なcheck、治療、予防処置が必要となります。かかりつけ歯科医をもつことがない方は是非歯科医院に足を運んでください。長きに渡り治療してもらえ
るドクターを探してください。 歯科衛生士 榎木 誠子